

5月3日（日）主日礼拝レジュメ

「神は若い時からの拠り所」 詩篇71篇1～6節

この詩篇71篇の著者はだれか？おそらくダビデの後に現れた人物ではないか？

9節「年老いたときも 私を見放さないでください。私の力が衰え果てても見捨てないでください。」18節「年老いて 白髪頭になったとしても 神よ 私を捨てないでください。」との言葉から、この詩篇の作者は高齢だったのではないか。また1～4節には、主に助けを求める嘆願が記されていて、10節と11節には、この人に敵対する者の存在があっても、決して彼の主に対する信仰は揺らぐことはなかった。

この詩篇全体を貫いているのは、この作者の主に対する揺るぎなき信仰。そのような信仰は5、6節から生まれた。しかし、気をつけるべきことは、主が彼に信仰による望みを与えられた、主を拠り所とする信仰を主が恵みとして彼に与えたということであって、自分が主に望みを置き、若い日から何かあれば主を自分は拠り所としてきた、そのようにして自分はここまで信仰生活を送ってきたということではない。神が恵みとして信仰による希望を与え、神が恵みによって信仰による私の拠り所となってくださった。

6節の「抱かれています」と訳されているヘブル語は、詩篇51篇12節の「支える」と同じ言葉。何かあって頼ろうとする者の支えとなるとの意味。71篇においては、生まれたときから 主なる神に抱かれるようにして支えられてきたということなのだろう。そのような中で「私はいつもあなたを賛美しています。」と、彼は主の支えと守りを意識しながら、主をほめたたえていた。また「私は多くの人にとって奇跡と思われました」とありますが、奇跡と思われるようなかたちで、様々な危険や困難から助け出されたのだろう。

教会には子どもたちが与えられていることを感謝したい。まさに一人一人は主が母の胎から取り上げられた者たちであるが、私たち大人が経験しているように、彼らが人生を生きていく上ではさまざまな困難、試練、つらいことも多く経験することがあるかもしれない。その中で主は一人一人の望みとなり、拠り所となってくださるように、また、そのような信仰を主が与えられるように一人一人のために祈ってまいりたい。そして、私たちは子どもたちの模範となり、証しとなるべき。

そのようなかたちでも私たちは主の奇しいみわざを自らの証しとして告げ知らせたい。